



どこか輝いてみえる
「仕事」をしているあのの人にズームアップ。

ハンドメイドで 親子の絆づくりを

「ハンドメイド」。最近よく耳にする言葉だ。高度な技術をもつ職人から、自宅で趣味の一端で始める方まで携わる人は幅広い。この岡山でもハンドメイド作家の個展やイベント出展など精力的な活動が見受けられる。そんな中でも子供服のハンドメイド作家として最近注目を集めているのが、日村恵美子さん。とてもカラフルで見ているだけでワクワクするような作品が彼女の手によって作られる。年一回の個展とネットでの販売をメインに活動を行っている。

ハンドメイドの楽しさ伝えたい

日村さんが子供服のハンドメイドを始めたきっかけは、長女誕生のお祝いに友人が送ってくれたハンドメイドの子供服に大変感動したことだそう。始めた当初は大好きな娘のために服を作りたいという思いだけであった。しかし今では、5歳になる娘さんとデザインを話し合いながら世界にたった1つの作品を仕上げていく「ハンドメイドは娘との会話のきっかけを与えてくれ、娘の喜ぶ姿を見せてくれる本当に素敵なものです」と輝く笑顔で話す。

そんな日村さんが、大学では世界史を専攻するなど、ミシンや裁縫にはほど遠い生活を送っていたそう。子ども服を作り始めた当初、販売目的はなかったが「一人でも多くのお母さんにハンドメイドの喜びを知ってもらいたい」との気持ちからネット販売を始めた。自身のお子さんと同じサイズ商品しか作らないのは第1の目的が商売ではないから。

ハンドメイド作家
マチルダ運営

日村 恵美子さん

<http://matilda-exblog.jp/>

親子の絆を大切にする姿勢は商品を通じて多くの方へ届き、人々の心を動かすだろう。

人との出会い大切に

これからの夢は？との質問に「娘の成長と共にハンドメイドの子供服は必要とされない日がくると思います。その時は、オリジナルの生地を扱ってみたいかな...。ハンドメイドで知り合った方々とも何らかの形で関わりを持ち続けたいです。大切な出会いはかりです。」

親子の絆、他人との絆、形は違えどかけがえのないもの。人との関わりが希薄な現代だからこそ見失いたくない！そんな気持ちが伝わってくる。



世界遺産に興味、海外にも出向く

プライベートでは世界遺産に大変興味があり、時間があれば実際に足を運ぶそう。インドネシアのポロブウル寺院やエジプトのピラミッドなどと思いつくだけで、感動が胸の高鳴りが抑えられなくなる様子が伝わってくる。「いつか娘と一緒に世界遺産を回りたい」と最後まで優しいお母さんの表情が印象的だった。